

THE KILLER WHALE TIMES

H30 朝日茨戸レガッタ号

皆様いかがお過ごしでしょうか。2年目タイムス班の田畑です。6月30日(土)~7月1日(日)の2日間、茨戸川ポートコースにて朝日茨戸レガッタが開催されました。商大からは男子舵手付きフォア、男女ダブルスカル、新人ジョイフォア2艇の合計5クルーが出場しました。1年目にとっては初めてのレース。どのクルーも健闘し、中でも男子舵手付きフォアは3位、女子ダブルスカルは準優勝という好成績を収めることができました。1日目夜に行われたレセプションでは招待クルーのミュンヘンローイングクラブの皆さんとの交流も深めることができました。

応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。



RACE RESULTS

○新人ジョイフォア

Aチーム

C: 佐々木登守(4) S: 久光智也(1) 3: 柳沢将(1) 2: 豊田将生(1) B: 松繁正和(1)

予選1組

レーン	クルー名	着順	タイム
1	道新ファイターズ	1	3:10.64
2	小樽三川屋	2	3:11.82
3	小樽商科大学A	3	3:27.31

順位決定5-8位

レーン	クルー名	着順	タイム
1	おたるB&G 66	2	3:07.62
2	札幌RC	1	3:02.63
3	小樽商科大学A	4	3:23.19
4	石狩翔陽高校A	3	3:16.76

Bチーム

C: 江口大樹(4) S: 坂本愛莉(1) 3: 大浦美咲(1) 2: 熊川佳音(1) B: 善積建太(1)

予選2組

レーン	クルー名	着順	タイム
1	瀬田RC 昔美女	2	3:06.08
2	WILD ROVER 59	1	3:03.28
3	小樽商科大学B	3	3:49.92

順位決定9-11位

レーン	クルー名	着順	タイム
1	小樽商科大学B	3	3:58.70
2	道新ぶんぶん	2	3:44.15
3	MRC	1	3:25.69

○男子ダブルスカル

S: 関崎皓介(2) B: 中山弘崇(4)

予選1組

レーン	クルー名	着順	タイム
1	道新ナイスミドル	3	4:19.01
2	小樽商科大学	1	4:10.42
3	北大医学部 北鷲	2	4:10.80



決勝

レーン	クルー名	着順	タイム
1	北大医学部 北鷲	2	3 : 4 9. 4 1
2	MRC	1	3 : 4 4. 7 0
3	小樽商科大学	4	3 : 5 9. 0 1
4	道新ナイスミドル	3	3 : 5 7. 7 7



○女子ダブルスカル

S : 高瀬鈴香(3) B : 田畑七奈(2)

予選1組

レーン	クルー名	着順	タイム
1	小樽商科大学	1	4 : 2 5. 3 9
2	北大医学部 B	2	5 : 1 6. 1 7
3	北海道大学 B		棄権



決勝

レーン	クルー名	着順	タイム
1	石狩翔陽高校	3	4 : 2 0. 7 9
2	北大医学部 A	1	4 : 0 2. 4 2
3	小樽商科大学	2	4 : 1 2. 9 9
4	北大医学部 B	4	4 : 3 9. 4 5

○男子舵手付きフォア

C : 西谷昇馬(2) S : 鈴木健太(4) 3 : 末吉祐馬(3) 2 : 荒井隼人(2) B : 後藤樹紀(3)

予選1組

レーン	クルー名	着順	タイム
1	北大医学部 玄武	1	3 : 4 1. 9 4
2	オム二齒科 AC	3	3 : 5 2. 9 0
3	小樽商科大学	2	3 : 4 5. 8 1

決勝

レーン	クルー名	着順	タイム
1	小樽商科大学	3	3 : 3 1. 7 0
2	北大医学部 玄武	2	3 : 2 9. 3 5
3	MRC	1	3 : 2 7. 3 9
4	北海道大学		棄権



COMMENT

○久光智也(1)

joy4の商大Aで整調を務めた久光です。今回の茨戸レガッタは1年生にとって初めての大会でした。レース内容を振り返ってみると、中々思うように漕げなかったという印象です。他の船と並べて練習する機会が少なかったため、隣の船と競る感覚に慣れておらず漕ぎが崩れてしまいました。特にAのクルーは高レートでの漕ぎが練習でも安定せず、レース中もレートを下げることがありました。それでもこのクルーで1つのレースを漕ぎ切ったことには満足感を覚えています。結果は8位でまだまだ自分たちの未熟さを感じています。今後は北大戦に向けて日々の練習に取り組んでいこうと思います。応援して下さった方々、ありがとうございました。

○大浦美咲(1)

ジョイフォアBクルーとして出場しました1年の大浦です。今回の茨戸レガッタが私たち1年にとって初めての大会ということで全員が緊張しながらスタートに臨みました。結果は良いとは言えない結果であったとは思いますが、ハイレートで皆で合わせて漕げたことは良かったと思います。しかし一方で緊張や焦りがあったことでスタートがあまりうまくいかなかったのがとても悔しい反省すべきところだと思いました。ただ、練習のときには誰も声出ししていないことも多々あったのにレースでは自然と皆で声をかけあって漕げたので疲れたけど辛くはありませんでした。本当にクルーの全員に感謝しています。私はこの大会で漕手としては終わりですが、この経験を糧にしてこれからはマネージャーとして漕手を支えられるよう頑張りたいと思います。



○佐々木登守(4)

新人トレーナーの佐々木登守です。ジョイフォアAクルーのコックスをしました。予選、順位決定と2レースに出場しましたが両レースともに練習の成果をうまく発揮できなかったように思います。

今年は漕ぎの基本を大切にしたいと考えて低レート中心に練習を行ったためレースを想定したメニューが少なかったせいもありますが、直前のアップの時にはそれなりに揃って漕げていたのに、いざレースがスタートすると上体に力が入って山漕ぎになって抜き上げで水をひっかけてバランスが崩れてフォワード中に水面に擦ってエントリーがずれて…とすさまじい悪循環に陥ってしまいました。漕手もイメージ通りに漕げずにもどかしい思いをしたのではないのでしょうか。

1年生にとって初めてのレースとなった今回の茨戸レガッタは悔しい結果となってしまいましたが、彼らにとって貴重な経験になったと思います。この経験を今後の練習のモチベーションにしていってほしいです。

○関崎皓介(2)

こんにちは、2年の関崎です。

今回で2回目となった茨戸レガッタは、ダブルスカルでのエントリーとなりました。近年、茨戸レガッタは気象条件の良くない中でレースを行っていたということですが、今年、2日目は雨が降っておりましたが、初日は天気もよく、風もあまりないような良いコンディションでレースを迎えることができました。

直前の練習では腰の痛みもあり、思うように乗艇練習が出来ず、本番は予定していたレースレートよりもいづらか落としてのレースでした。その代わりに、安定性と1本の漕ぎの強さにこだわりました。1日目の予選は、意識してこだわったところがうまく出たと思いました。普段、並べでの練習があまりなかったため、並べたときにどうなるか不安もありましたが、バウとしっかり1本合わせて、進めることができたと思います。予選がうまくいっただけに、決勝で思うような漕ぎが出来ず、入賞を逃してしまったところは残念なところでした。しかし、自分の中でこの2ヶ月ほど練習してきた中で、やってきたことは出せたと感じたレースでした。

○田畑七奈(2)

3年目の高瀬さんと共に女子ダブルで出漕させていただきました。

2人でレースに臨むのは昨年10月の東日本新人以来だったのできちんと漕げるかが心配でしたが、そんな心配は無用で最初の練習から漕ぎが合っていたように思います。

レースはどちらのレースも作戦通り足蹴りとスパートをかけることができ、最終的に準優勝することができました。中盤でのスピードの落ちが課題ではありますが、出せる力を全て出せた達成感のある楽しいレースでした。

実は今大会は相方であった高瀬さんにとって漕手人生最後のレースでした。昨年初めてダブルを組んだ時から既に1年近くが経ちました。声を掛け合ったり励ましあったり練習の後にくだらない話をして笑ったり、乗艇に関することに関わらず多くのことを教えていただきました。楽しいときは楽しく厳しいときは厳しく、ここまで2人でやってこられて本当に良かったです。相方が高瀬さんで私は幸せ者でした。これからはしばらくシングルに乗ることになりますが、ダブルで学んだことを忘れずに生かしていきたいと思います。ありがとうございました。



○末吉祐馬(3)

男子舵手付きフォアの3番を務めた末吉祐馬です。

コンディションの良い中でのレースでしたが、結果は3位で北大医学部へのリベンジを果たすことはできませんでした。

医学部との大きな差はスタートとコンスタントレートにありました。スタートで差をつけられ、こちらよりも2つ高いレートでその差を守りきれなかったという形です。

ただレートは医学部より低いもののコンスタントでは徐々に差を詰めており、スパートでも差は縮まっていた。スタートで一艇身半ほどつけられていた差も最終的には半艇身ほどにまで縮まっていた、それだけに悔しさは大きかったです。

次のレースは対北大戦です。茨レガでは僅差ながら勝っている相手なので、なんとか今年も勝ちたいと思います。また来年こそは医学部にリベンジしたいと思います。

実はチャレンジエイトも乗りました。すごく早くて楽しかったです。



監督兼ヘッドコーチ報告

監督 谷津法彦 (平成5年卒)

☆朝日茨戸レガッタについて(H30年6月30日、7月1日)

去る6/30・7/1の両日、朝日茨戸レガッタが行われた。

商大として2018年最初となるレースには男子舵手付フォア、男子ダブルスカル、女子ダブルスカル、新人はジョイフォア2クルーが出漕した。

昨年のこの時期は茨レガの前の週に対北大戦があり、対校種目がダブルスカルだったこともあって、漕手全員でシングル及ダブルでのシートレースを盛んに行っていた。今年の北大戦は8/12と例年より遅く、種目はフォア。なのでスカルでのセレクションは全く行わず、新人勧誘の終わった4/22以降すぐにフォアを組んでの練習に移行した。

シートはS.鈴木(4)、3.末吉(3)、2.荒井(2)、B.後藤(3)、C.西谷(2)という布陣。昨年の茨レガ準優勝フォアの2番とコックスが4年目から2年目に替わった形である。あくまでも対北大戦、及びその4週間後のインカレに向けてのクルーである。初めの内はハイレート漕には手を出さず、地道に低レートのロングを重ねて持久力向上に努めた。5月は4年目の就活でだいぶ水上練習に穴が開いたが、ウエイトや体幹トレーニングを欠かさずにフィジカル面に刺激をかけた。5/10には待望の新艇が格納され、大きな追い風となった。それまで使っていたしゃちXと比べて明らかに軽く、初めこそ艇が浮いているような感じでバランスを取るのに苦労したが、徐々に艇の良さが引きだされていった。技術的にはキャッチからフィニッシュまでロスなく力を伝える事を常に意識し、レースレートに近づくに従って速いドライブと柔らかいフォワードのメリハリを付けて艇の滑りを最大限引き出すようにしていった。低レート漕での滑りは良く、北大などと並べている時でも意外と焦らずにいいリズムが出たものだが、逆に相手がないロング漕などでは明らかに艇速が下がったりノーワーク1本目から合ってなかったりという、メンタルのもろさを注意する事もしばしばであった。6月に入ってから膝やら肋骨やらを痛がる漕手が出てきた事もあってやや足踏み状態に陥り、1,000mのトライアルで3分50秒台を出してしまった。レースレートをr.34に設定したがr.32の方が速い時もあったようである。

肝心のレースでは決勝で3分31秒、ベストタイムではあるが目標の3分20秒台前半には及ばなかった。しかもライバルと目していた北大医学部対校クルーに昨年に続いての敗戦である。パワーの差、レートやブレードワークの質を高める事でまだまだタイム短縮の余地はあると感じた。まずはケガを直して不安の無い状態で2,000mレースの為の準備に舵を切りたい。

男子ダブルは対校フォアの選からもれた関崎(2)、中山(4)のコンビ。スタミナとパワーに課題がある上になかなか漕ぎが合わず、どうやってすり合わせるかに労力を費やした。どうしても腕や上体に頼りがちになるのでそこは常に脚主導、同じ重さでフィニッシュまで力をかけ続ける事を課題にした。ただ基本的に技術を支える体の強さが無いと例えば高レートもシートから上げる事になるし、フィニッシュ後のブレードの高さも保てない。それでも理想の漕ぎを表現しようとすれば体に負担がかかる。レース前に整調が背中を痛めたのはそれが原因だったかも知れないと反省している。どちらかがいたりいかなかったりで本当に一進一退のクルーだった。茨レガ初日に結成以来一番いい漕ぎが出来て全体タイム2位だったのは素晴らしいだったが、2日目の決勝で前日勝った2クルーに負けての4位で表彰台を逃したのは、ある意味彼ららしかった。

女子ダブルは昨年秋の東日本新人戦以来のレースである。シートも同じくS.高瀬(3)、B.田畑(2)。東日本の時にも書いたが、2人とも脚に故障を抱えており、常にお互いのコンディションを確認しながらその日その日の練習をどうやるか考えながら練習していた。しかしそれだけに一回のスタンバイに込める練習目的や技術ポイントに関しては集中が高かった。とりあえず体格もパワーも違う二人だが、持ち味を最大限活かした上で合わせられるよう注意した。一番強いポジションでドライブを始める為のエントリー動作、フィニッシュをしっかり脚で押し切る事などを重点的に指摘した。幸い組んだ当初からユニフォーミティは良か

だったので、たまにクルー練習に穴が開いても再開した時にまた同じようなポイントから始められた。4~5月こそ r.18 で 500m 漕 4 本くらいの練習しか出来なかったが、6 月中旬にはしっかりレース出来る状態になっていたのは大したものである。大会では北大女子 2 クルーがいずれもケガで棄権してしまった事で、直接対決とはならなかったが、決勝では格上と見ていた北大医学部 A に必死に迫っていった姿が印象的だった。

今大会とは関係無いが、パウの田畑は国体のブロック予選にダブルスカルの一員として出漕する。ケガの状態は心配だが、この経験は大きいものと期待している。

医学部の男子フォアも女子ダブルも、レース後に話をした時「機会があったら並べて練習させて欲しいです」と言ってくれた。もちろんそれまでも並べはやってきたが、更に交流を深めて茨戸全体のレベルアップにつなげていければと思う。

1 年目 2 クルーもそれぞれ 2 回レースを経験出来た。蹴り出しの時の緊張丸出しの顔は見ているこっちまで緊張したものが、いざレースになるとなかなかのユニフォームティで、今後が楽しみである。

次のレースはいよいよ対北大戦、8/12(日)です。応援よろしくお願いします。

日々の詳しい練習内容や感想は私のブログ「谷津の穴」をご参照下さい。

ご意見・ご要望等あれば私の下記アドレスまでお願いします

n_tanitsu@yahoo.co.jp



今後の大会日程

8月12日(日) 対北大定期戦

9月6日(木)～9日(日) インカレ

10月8日(祝) 札幌市民レガッタ(茨新)

9月21日(金)～23日(日) 北海道ボート選手権大会

10月21日(日) マシーンローイング大会

11月9日(金)～13日(日) 全日本新人選手権大会

後援会費について

後援会費は、原則として1年で¥10,000の定額です。¥10,000以上の金額をいただいた場合も、後援会費としてお預かり致します。後援会費はほぼ全額が現役部員の活動援助金として充てられますので、できる限り多くの皆様のご協力をお願い致します。(尚、後援会会則に則り、満年齢65歳以上の会員の方・既婚女性の会員の方は原則後援会費は免除扱いとなっています。)

後援会費は、日本信販の自動引落サービスをご利用できます。できる限り多数のOBの方々をご加入下さいますようお願い致します。ご加入方法及び引き落とし口座の変更につきましては、現役会計(藤村園子)か担当の平成10年卒 佐藤公洋までお問い合わせください。振込先はこちらとなっています。

ゆうちょ銀行 店名・店番:908
口座番号:1532438 (普通預金)
北洋銀行 店名:オタルシヨウカダイガクソウ
タイプ
店番:341
口座番号:3657349
取引店:小樽中央支店

連絡先: 会計 2年目 荒井 隼人

TEL: 080-3571-6710

MAIL: ft_madrid_0626@icloud.com

✪個人情報保護の取り組み✪

後援会会員の方々には、小樽商科大学漕艇部の活動に必要な情報として、お名前・連絡先・勤務先などの個人情報をご提供いただいております。小樽商科大学漕艇部では、ご提供いただきました個人情報につきましては以下のように取り扱います。

- ・会員の方々の個人情報の利用については、小樽商科大学漕艇部の活動(後援会誌『しゃち』や『Killer Whale Times』の発送・配信など)の範囲内での利用に限定します。

- ・ご自身に関する情報の訂正・削除などのご依頼があった場合は、特別の理由がない限り対応をいたします。

- ・会員の方々の情報保護が確実に実施されるための継続的な改善を行い、適切に管理いたします。

ご意見やご提案等がございましたらお問い合わせください。今後ともよろしく願いいたします。

連絡先: 主将 3年目 末吉 祐馬

TEL: 080-8290-0129

Mail: rowing1937@yahoo.co.jp